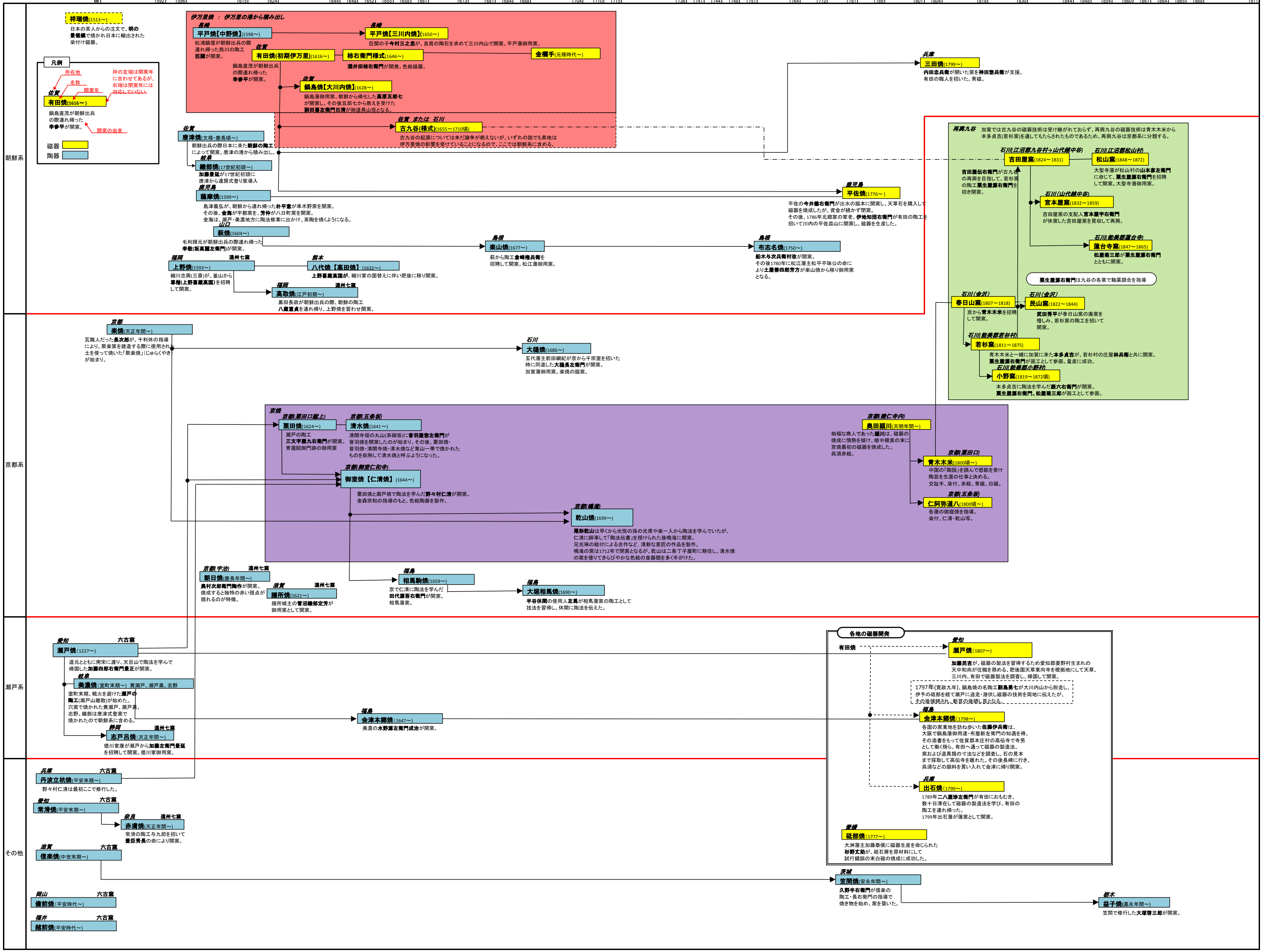
1600 1700 1800

安土桃山時代 江戸時代

天正以前	天正	文禄	慶長	元和	寛永	正保	慶安	承応	明暦	万治	寛文	延宝	天和	貞享	元禄	宝永	正徳	享保	元文	寛保	延享	寛延	宝暦	明和	安永	天明	寛政	享和	文化	文政	天保	弘化	嘉永	安政	万延	文久	元治	慶応	明治
from	1573	1592	1596	1615	1624	1644	1648	1652	1655	1658	1661	1673	1681	1684	1688	1704	1710	1716	1736	1741	1744	1748	1751	1764	1772	1781	1789	1801	1804	1818	1830	1844	1848	1854	1860	1861	1864	1865	1868
to	1592	1596	1615	1624	1644	1648	1652	1655	1658	1661	1673	1681	1684	1688	1704	1710	1715	1736	1741	1744	1748	1751	1764	1772	1781	1789	1801	1804	1818	1830	1844	1848	1854	1860	1861	1864	1865	1868	1911



朝鮮系

祥瑞焼(1513～)
日本の茶人からの注文で、**明の景徳鎮**で焼かれ日本に輸出された染付け磁器。

凡例

佐賀 **有田焼**(1616～)
鍋島直茂が朝鮮出兵の際連れ帰った**李参平**が開窯。

所在地
名称
開窯年
枠の左端は開窯年に合わせてあるが、右端は閉窯年には対応していない
開窯の由来

磁器 🟨
陶器 🟦

伊万里焼 ： 伊万里の港から積み出し

長崎 **平戸焼【中野焼】**(1598～)
松浦鎮信が朝鮮出兵の際連れ帰った熊川の陶工**巨関**が開窯。

長崎 **平戸焼【三川内焼】**(1650～)
巨関の子**今村三之丞**が、良質の陶石を求めて三川内山で開窯。平戸藩御用窯。

佐賀 **有田焼(初期伊万里)**(1616～)
鍋島直茂が朝鮮出兵の際連れ帰った**李参平**が開窯。

柿右衛門様式(1646～)
酒井田柿右衛門が開発。色絵磁器。

金襴手(元禄時代～)

佐賀 **鍋島焼【大川内焼】**(1628～)
鍋島藩御用窯。朝鮮から帰化した**高原五郎七**が開窯し、その後五郎七から教えを受けた**副田喜左衛門日清**が御道具山役となる。

佐賀 または 石川 **古九谷(様式)**(1655～1710頃)
古九谷の起源については未だ論争が絶えないが、いずれの説でも素地は伊万里焼の影響を受けていることになるので、ここでは朝鮮系に含める。

兵庫 **三田焼**(1799～)
内田忠兵衛が開いた窯を**神田惣兵衛**が支援。有田の職人を招いた。青磁。

佐賀 **唐津焼**(文禄・慶長頃～)
朝鮮出兵の際日本に来た**朝鮮の陶工**によって開窯。唐津の港から積み出し。

岐阜 **織部焼**(17世紀初頭～)
加藤景延が17世紀初頭に唐津から連房式登り窯導入

鹿児島 **薩摩焼**(1599～)
島津義弘が、朝鮮から連れ帰った**朴平意**が串木野窯を開窯。
その後、**金海**が宇都窯を、**芳仲**が八日町窯を開窯。
金海は、瀬戸・美濃地方に陶法修業に出かけ、茶陶を焼くようになる。

鹿児島 **平佐焼**(1776～)
平佐の**今井儀右衛門**が出水の脇本に開窯し、天草石を購入して磁器を焼成したが、資金が続かず閉窯。
その後、1786年北郷家の家老、**伊地知団右衛門**が有田の陶工を招いて川内の平佐皿山に開窯し、磁器を生産した。

山口 **萩焼**(1604～)
毛利輝元が朝鮮出兵の際連れ帰った**李敬(坂高麗左衛門)**が開窯。

島根 **楽山焼**(1677～)
萩から陶工**倉崎権兵衛**を招聘して開窯。松江藩御用窯。

島根 **布志名焼**(1750～)
船木与次兵衛村政が開窯。
その後1780年に松江藩主松平不昧公の命により**土屋善四郎芳方**が楽山焼から移り御用窯となる。

福岡 遠州七窯 **上野焼**(1593～)
細川忠興(三斎)が、釜山から**尊楷(上野喜蔵高国)**を招聘して開窯。

熊本 **八代焼【高田焼】**(1632～)
上野喜蔵高国が、細川家の国替えに伴い肥後に移り開窯。

福岡 遠州七窯 **高取焼**(江戸初期～)
黒田長政が朝鮮出兵の際、朝鮮の陶工**八蔵重貞**を連れ帰り、上野焼を習わせ開窯。

再興九谷 加賀では古九谷の磁器技術は受け継がれておらず、再興九谷の磁器技術は青木木米から本多貞吉(若杉窯)を通してもたらされたものであるため、再興九谷は京都系に分類する。

石川(江沼郡九谷村→山代越中谷) **吉田屋窯**(1824～1831)
吉田屋伝右衛門が古九谷の再興を目指して、若杉窯の陶工**粟生屋源右衛門**を招き開窯。

石川(江沼郡松山村) **松山窯**(1848～1872)
大聖寺藩が松山村の**山本彦左衛門**に命じて、**粟生屋源右衛門**を招聘して開窯。大聖寺藩御用窯。

石川(山代越中谷) **宮本屋窯**(1832～1859)
吉田屋窯の支配人**宮本屋宇右衛門**が休窯した吉田屋窯を買収して再興。

石川(能美郡蓮台寺) **蓮台寺窯**(1847～1865)
松屋菊三郎が**粟生屋源右衛門**とともに開窯。

粟生屋源右衛門は九谷の各窯で釉薬調合を指導

石川(金沢) **春日山窯**(1807～1818)
京から**青木木米**を招聘して開窯。

石川(金沢) **民山窯**(1822～1844)
武田秀平が春日山窯の廃窯を惜しみ、若杉窯の陶工を招いて開窯。

石川(能美郡若杉村) **若杉窯**(1811～1875)
青木木米と一緒に加賀に来た**本多貞吉**が、若杉村の庄屋**林兵衛**と共に開窯。
粟生屋源右衛門が画工として参画。量産に成功。

石川(能美郡小野村) **小野窯**(1819～1872頃)
本多貞吉に陶法を学んだ**藪六右衛門**が開窯。
粟生屋源右衛門、松屋菊三郎が画工として参画。

京都系

京都 **楽焼**(天正年間～)
瓦職人だった**長次郎**が、千利休の指導により、聚楽第を建造する際に使用された土を使って焼いた「聚楽焼」(じゅらくやき)が始まり。

石川 **大樋焼**(1686～)
五代藩主前田綱紀が京から千宗室を招いた時に同道した**大樋長左衛門**が開窯。
加賀藩御用窯。楽焼の脇窯。

京焼

京都(粟田口蹴上) **粟田焼**(1624～)
瀬戸の陶工**三文字屋九右衛門**が開窯。
青蓮院御門跡の御用窯

京都(五条坂) **清水焼**(1641～)
清閑寺領の丸山(茶碗坂)に**音羽屋惣左衛門**が音羽焼を開窯したのが始まり。その後、粟田焼・音羽焼・清閑寺焼・清水焼など東山一帯で焼かれたものを総称して清水焼と呼ぶようになった。

京都(御室仁和寺) **御室焼【仁清焼】**(1644～)
粟田焼と瀬戸焼で陶法を学んだ**野々村仁清**が開窯。
金森宗和の指導のもと、色絵陶器を製作。

京都(鳴滝) **乾山焼**(1699～)
尾形乾山は早くから光悦の孫の光甫や楽一入から陶法を学んでいたが、仁清に師事して「陶法伝書」を授けられた後鳴滝に開窯。
兄光琳の絵付による合作など，清新な意匠の作品を製作。
鳴滝の窯は1712年で閉窯となるが、乾山は二条丁子屋町に移住し、清水焼の窯を借りてきらびやかな色絵の食器類を多く手がけた。

京都(建仁寺内) **奥田頴川**(天明年間～)
裕福な商人であった**頴川**は、磁器の焼成に情熱を傾け、暗中模索の末に京焼最初の磁器を焼成した。
呉須赤絵。

京都(粟田口) **青木木米**(1800頃～)
中国の「陶説」を読んで感銘を受け陶芸を生涯の仕事と決める。
交趾手、染付、赤絵、青磁、白磁。

京都(五条坂) **仁阿弥道八**(1800頃～)
各藩の御庭焼を指導。
染付、仁清・乾山写。

京都(宇治) 遠州七窯 **朝日焼**(慶長年間～)
奥村次郎衛門陶作が開窯。
焼成すると独特の赤い斑点が現れるのが特徴。

滋賀 遠州七窯 **膳所焼**(1621～)
膳所城主の**菅沼織部定芳**が御用窯として開窯。

福島 **相馬駒焼**(1659～)
京で仁清に陶法を学んだ**田代源吾右衛門**が開窯。
相馬藩窯。

福島 **大堀相馬焼**(1690～)
半谷休閑の使用人**左馬**が相馬藩窯の陶工として技法を習得し、休閑に陶法を伝えた。

瀬戸系

愛知 六古窯 **瀬戸焼**(1227～)
道元とともに南宋に渡り、天目山で陶法を学んで帰国した**加藤四郎右衛門景正**が開窯。

岐阜 **美濃焼**(室町末期～) 黄瀬戸、瀬戸黒、志野
室町末期、戦火を避けた**瀬戸の陶工**(瀬戸山離散)が始めた。
穴窯で焼かれた黄瀬戸、瀬戸黒、志野。織部は唐津式登窯で焼かれたので朝鮮系に含める。

静岡 遠州七窯 **志戸呂焼**(天正年間～)
徳川家康が瀬戸から**加藤左衛門景延**を招聘して開窯。徳川家御用窯。

福島 **会津本郷焼**(1647～)
美濃の**水野源左衛門成治**が開窯。

各地の磁器開発

有田焼

愛知 **瀬戸焼**(1807～)
加藤民吉が、磁器の製法を習得するため愛知郡菱野村生まれの天中和尚が住職を務める、肥後国天草東向寺を根拠地にして天草、三川内、有田で磁器製法を調査し、帰国して開窯。

1797年(寛政九年)、鍋島焼の名陶工**副島勇七**が大川内山から脱走し、伊予の砥部を経て瀬戸に逃走・潜伏し磁器の技術を両地に伝えたが、その後捕縛され、斬首の後晒し首となる。

福島 **会津本郷焼**(1798～)
各国の窯業地を訪ね歩いた**佐藤伊兵衛**は、大阪で鍋島藩御用達・布屋新左衛門の知遇を得、その添書をもって佐賀郡本庄村の高伝寺で寺男として働く傍ら、有田へ通って磁器の製造法、窯および道具類の寸法などを調査し、石の見本まで採取して高伝寺を離れた。その後長崎に行き、呉須などの顔料を買い入れて会津に帰り開窯。

兵庫 **出石焼**(1799～)
1789年**二八屋珍左衛門**が有田におもむき、数十日滞在して磁器の製造法を学び、有田の陶工を連れ帰った。
1799年出石藩が藩窯として開窯。

愛媛 **砥部焼**(1777～)
大洲藩主加藤泰候に磁器生産を命じられた**杉野丈助**が、砥石屑を原材料にして試行錯誤の末白磁の焼成に成功した。

その他

兵庫 六古窯 **丹波立杭焼**(平安末期～)
野々村仁清は最初ここで修行した。

愛知 六古窯 **常滑焼**(平安末期～)

奈良 遠州七窯 **赤膚焼**(天正年間～)
常滑の陶工与九郎を招いて**豊臣秀長**の命により開窯。

滋賀 六古窯 **信楽焼**(中世末期～)

茨城 **笠間焼**(安永年間～)
久野半右衛門が信楽の陶工・長右衛門の指導で焼き物を始め、窯を築いた。

栃木 **益子焼**(嘉永年間～)
笠間で修行した**大塚啓三郎**が開窯。

岡山 六古窯 **備前焼**(平安時代～)

福井 六古窯 **越前焼**(平安時代～)